

資料2

にゅうぜん「まち・ひと・しごと」づくり戦略
検証委員会 第4回委員会 資料

令和3年7月29日

目次

I にゆうぜん「まち・ひと・しごと」づくり戦略について

- 1. にゆうぜん「まち・ひと・しごと」づくり戦略の概要 1
- 2. 効果検証について 2

II にゆうぜん「まち・ひと・しごと」づくり戦略の効果検証について

- 1. 数値目標の達成状況と取組みの方向性 3
- 2. 基本目標ごとの重要業績評価指標（KPI）の効果検証
 - 基本目標1 11
 - 基本目標2 19
 - 基本目標3 25
 - 基本目標4 35

III 国の支援制度を活用した事業の効果検証について

- 1. 地方創生推進交付金（令和2年度当初予算） 45
- 2. 地方創生拠点整備交付金（令和2年度当初予算） 50

I にゅうぜん「まち・ひと・しごと」づくり戦略について

1. にゅうぜん「まち・ひと・しごと」づくり戦略の概要

平成26年11月に制定された「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国は、少子高齢化等による人口減少や東京圏への過度な一極集中がもたらす地域経済の縮小の克服に向け、具体的施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。

これを受け、本町においても平成27年10月に「人口ビジョンにゅうぜん」及び『にゅうぜん「まち・ひと・しごと」づくり戦略』（以下、総合戦略とする）を策定し、各施策の取組みを進めてきた。

戦略の目指す将来像

◇人口の自然減を緩やかにする

めざすべき合計特殊出生率を人口置換水準である 2.07 とする

◇人口の社会減からの脱却

選ばれるまちづくりで転入超過の実現を目指す

■基本目標 1

しごとづくり

産業の活性化を促し、安定した雇用を創出する

【数値目標】

- 町民の町内事業所就業率
- 町民以外の町内事業所就業率
- 町民一人あたり所得

■基本目標 2

ひとの流れづくり

入善町に新しいひとの流れをつくる

【数値目標】

- 入善UIサポートセンターを通じた移住世帯数
- 観光入込客数
- 社会増減

■基本目標 3

結婚・出産・子育てしやすい地域づくり

若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる

【数値目標】

- 人口千人あたりの婚姻件数
- 人口千人あたりの出生件数
- 合計特殊出生率

■基本目標 4

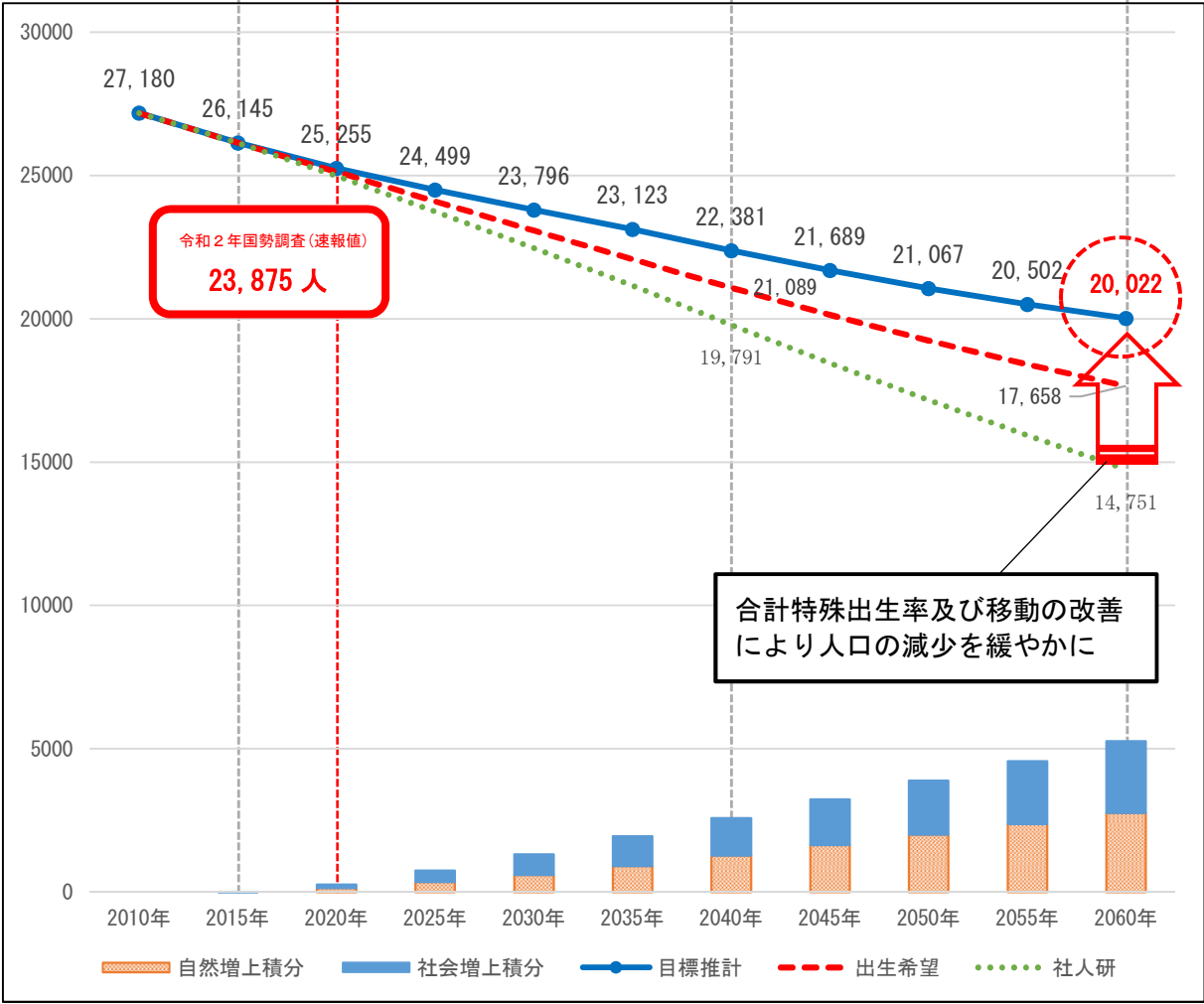
まちづくり

扇状地の恵まれた環境の中で、豊かで安心して暮らせるまちをつくる

【数値目標】

- アンケートによる住民満足度
- 町民一人あたり医療費
- 介護保険の認定を受けていない人の割合

◇入善町が目指す将来人口
2060年（45年後）の人口 **20,000人** を目指します。



2. 効果検証について

策定後も、評価指標に基づき、住民をはじめ「産」「官」「学」「金」「労」「言」等が連携し、施策や事業の効果検証や見直しを図ることとしている。

【にゅうぜん「まち・ひと・しごと」づくり戦略より抜粋】
 (5) 計画のフォローアップ
 本戦略の推進に当たっては、住民をはじめ「産」「官」「学」「金」「労」「言」等が情報を共有しながら連携を図り、「入善で暮らしたい希望をかなえるまちづくり」の実現に向けて、町全体が一体となって取り組んでいきます。
 また、実行性を確保しつつ、効果的に推進するため、基本目標ごとに数値目標を掲げるとともに、施策ごとに重要業績評価指標（KPI）を設定して、PDCAサイクルによるマネジメントシステムを確立し、施策や事業の効果検証や見直しを図り、人口減少の克服に対して挑戦していきます。

Ⅱ にゅうぜん「まち・ひと・しごと」づくり戦略の効果検証について

1. 数値目標の達成状況と取組みの方向性

総合戦略における4つの柱に掲げる12項目の数値目標について、計画最終年度（令和2年度）における達成状況は以下のとおりとなった。

基本目標 1

産業の活性化を促し、安定した雇用を創出する

産業の振興により、若者から高齢者まで、それぞれの年代のライフスタイルやライフサイクルに合わせた雇用ニーズに応え、安定した雇用の創出を図り、すべての町民の『働きたい』を実現するまちを目指します。

数値目標	基準値	実績値		目標値 (R2)	達成状況	方向性
町民の町内事業所 就業率	54.3% (H22)	H27	53.1%	60.0%	—	継続
		H28	—			
		H29	—			
		H30	—			
		R1	—			
		R2	—			
町民以外の町内 事業所就業率	31.5% (H22)	H27	32.4%	35.0%	—	継続
		H28	—			
		H29	—			
		H30	—			
		R1	—			
		R2	—			
町民一人あたり所得	2,700千円 (H23)	H27	3,224千円	3,077千円	達成	継続
		H28	3,183千円			
		H29	3,157千円			
		H30	—			
		R1	—			
		R2	—			

【総合分析】

「町民の町内事業所就業率」と「町民以外の町内事業所就業率」については、いずれの指標値も計画期間以前の数値であるが、令和2年国勢調査に基づき今後公表される指標値もふまえつつ、関係する施策の推進を図る必要がある。

「町民の町内事業所就業率」については微減、「町民以外の町内事業所就業率」については微増となっており、目標を達成するため、町の基幹産業である農業をはじめ、地域資源を活かした持続可能な地場産業の発展と優良企業の誘致、経営安定に向けた設備投資や雇用の確保に向けたきめ細やかな支援を行い、町民や移住者等を支えるための「しごと」づくりを推進する。

「町民一人あたり所得」については、すでに目標を達成していることから、企業における、新設や増設、設備投資に対する的確な支援を行うとともに、農商工連携や6次産業化を促すことで、地場産業のさらなる高付加価値化や販路拡大を図るなど、様々な産業の経営安定につなげ、町民の所得の向上を目指す。

基本目標 2

入善町に新しいひとの流れをつくる

「選ばれるまち」として、まちの魅力を創出・発信することにより、「にゅうぜんファン」の増加を図るとともに、本町への新たな人の流れをつくり、定住・交流人口の拡大を目指します。

数値目標	基準値	実績値		目標値 (R2)	達成状況	方向性
入善UIサポートセンターを通じた移住世帯数 (計画期間内累計)	0世帯 (H26)	H27	15世帯	80世帯	達成	重点化
		H28	31世帯			
		H29	41世帯			
		H30	57世帯			
		R1	79世帯			
		R2	96世帯			
観光入込客数	659,233人 (H26)	H27	671,279人	780,000人	未達成	見直し を検討
		H28	703,489人			
		H29	691,819人			
		H30	683,304人			
		R1	679,693人			
		R2	382,798人			
社会増減	△ 140人 (H26)	H27	△ 129人	現状から 30人増	達成	重点化
		H28	△ 6人			
		H29	△ 110人			
		H30	△ 94人			
		R1	△ 84人			
		R2	△ 154人			

【総合分析】

「入善UIサポートセンターを通じた移住世帯数」については、移住の検討段階から移住・定住に至るまでの「安心」の確保を図るため、移住希望者の視点に立った「検討」「交流」「居住」「就業」「移動」の支援事業で構成する「入善町安心移住プロジェクト」を展開することで、目標を上回る移住世帯数を達成した。

新型コロナの影響から人の移動が制限される中において、移住促進の取組みは困難が予想されるものの、引き続き、きめ細やかなサポートと工夫を凝らした魅力の発信で、さらなる移住・定住の促進を図る。

「観光入込客数」については、「入善牡蠣ノ星」や「にゅうぜん浜マルシェ」のオープンなど、町の魅力を活かした新たな人の流れが生まれているが、目標達成には、町の魅力の積極的な発信はもとより、多くの人を呼び込むための施策の充実を図る必要がある。

引き続き、開催内容の工夫や取組みに関わる人の輪を広げるなど、イベントの活性化を図ることはもちろん、「屋内多目的施設」や「シーサイドロード（仮称）」、「山のみち」などの環境整備も効果的に活用することで、新たな人の流れを創出するとともに、黒部川扇状地フィールドミュージアム事業といった一貫性のあるまちの魅力づくりを進めていく。

「社会増減」については、基準値である平成26年の「△140人」と比べると計画期間内の指標値は大幅に改善する傾向にあった。

特に平成28年には、住民基本台帳人口動態において、社会増減が「△6人」となり、移住・定住に向けた施策の積極的な展開が確実に社会増の実現につながっていくものと期待されたが、現在は新型コロナの影響などによる人の移動の制限が、移住を促進する取組みの大きな逆風となっている。

人口の社会減からの脱却を実現させるためには、時代の潮流を予測したさらなる施策の推進が必要であり、いわゆる「交流人口」や「関係人口」といった視点も十分に意識しながら新たな人の流れづくりに努めていく。

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる

若い世代が希望通り結婚し、安心して妊娠・出産・子育て・教育ができるよう、地域ぐるみで子どもを産み育てやすいまちを目指します。

数値目標	基準値	実績値		目標値 (R2)	達成状況	方向性
人口千人あたりの 婚姻件数	3.2件 (H25)	H27	3.4件	4.4件	未達成	重点化
		H28	3.3件			
		H29	2.1件			
		H30	3.0件			
		R1	3.0件			
		R2	2.6件			
人口千人あたりの 出生件数	5.8件 (H25)	H27	5.2件	7.3件	未達成	重点化
		H28	5.7件			
		H29	5.4件			
		H30	4.9件			
		R1	4.1件			
		R2	4.2件			
合計特殊出生率	1.38 (H22)	H27	—	1.60	—	重点化
		H28	—			
		H29	1.41			
		H30	—			
		R1	—			
		R2	—			

【総合分析】

「人口千人あたりの婚姻件数」については、指標値が減少傾向であり、さらなる施策の推進が必要である。

結婚を促すために「それ行け！結婚プロジェクト」による、婚活イベントや婚活セミナーを定期的を開催するほか、結婚祝い金の贈呈や新婚世帯の新居入居費等への支援を行うとともに、「入善世話やき隊」と連携しながら取組みを推進することで、婚活イベント等の参加者の中から通算200組を超えるカップルと11組の成婚者が誕生している。

今後は、プロジェクトで成立したカップルのフォローアップにも力を入れ、引き続き、結婚に対する意識の醸成や男女の新たな出会いの場の創出に努める。

「人口千人あたりの出生件数」については、指標値が減少傾向であり、さらなる施策の推進が必要である。

出産・子育てに対する支援については、子育て世代包括支援センターを中心に保健師や助産師など、専門的な知識を有する母子保健コーディネーターを配置し、相談・ケア体制の充実を図るとともに、節目ごとの祝い金等の贈呈や、医療費や保育料などの子育て世帯の経済的負担のさらなる軽減など、ライフステージごとに「切れ目のない支援」を行い、子どもを産み育てる環境づくりに努める。

「合計特殊出生率」については、今後、公表予定の「人口動態保健所・市区町村別統計」により、指標の測定を行う予定である。

出生数の減少から推計すると、合計特殊出生率についても厳しい状況が予想されることから、出産・子育てに対する手厚い支援をはじめとする子どもを産み育てやすい環境づくりはもとより、出産の入り口でもある結婚を促す取組みにも積極的に努める。

基本目標 4

**扇状地の恵まれた環境の中で、
豊かで安心して暮らせるまちをつくる**

扇状地の恵まれた環境の中で、安心して快適な生活環境を創出し、誰もが健康でいきいきと心豊かに生活できるまちを目指します。

数値目標	基準値	実績値		目標値 (R2)	達成状況	方向性
アンケートによる 住民満足度	60.8% (H26)	H27	—	80.0%	未達成	継続
		H28	—			
		H29	—			
		H30	—			
		R1	64.2%			
		R2	—			
町民一人あたり 医療費（国民健康保険）	351,540円 (H25)	H27	378,349円	350,000円	未達成	重点化
		H28	395,104円			
		H29	401,303円			
		H30	408,591円			
		R1	427,480円			
		R2	403,547円			
介護保険の認定を 受けていない人の 割合（65歳以上）	81.5% (H26)	H27	82.6%	82.0%	達成	重点化
		H28	82.1%			
		H29	81.4%			
		H30	80.9%			
		R1	81.2%			
		R2	81.0%			

【総合分析】

「アンケートによる住民満足度」については、第7次総合計画の策定のため、令和元年度に実施した町民アンケートにより指標の計測を行った。

指標値は、基準値から向上したものの、目標である80%には達していない。町民アンケートから見える課題や強み・弱みなどから必要な施策の方向性を定めた第7次総合計画や第2期総合戦略では、効果的な施策を展開しながら、継続的に効果进行分析・検証し、住民の満足度が向上するよう総合的かつ長期的な視点で取り組んでいく。

「町民一人あたり医療費」については、高齢化の進展や医療技術の高度化に伴う医療費の高額化により、年々、増加している。

令和2年度には、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、日常生活における感染予防対策の徹底などもあり、町民一人あたりの医療費は減少している。

今後も感染症等の予防対策はもとより、食生活の改善や健康づくりの推進などの取組みにより、医療費の抑制に努める。

「介護保険の認定を受けていない人の割合」については、地域ぐるみの介護予防事業等の積極的な展開により、一旦は目標値を上回ったものの、高齢化の進展とともに、現在は指標が低下している。

町では、「健康寿命の延伸」を目指し、施策の重点化を図っており、生活習慣病の予防や食生活の改善を図る「減塩いいね！プロジェクト」、検診の受診や健康教室等への参加を促す「健康ポイント事業」など、町民ぐるみの健康づくりを推進することにより、指標の改善に努める。

2. 基本目標ごとの重要業績評価指標（KPI）の効果検証

基本目標1 産業の活性化を促し、安定した雇用を創出する

施策① 農水産業の振興と高付加価値化の推進

重要業績評価指標（KPI）	基準値	実績値		目標値	達成状況
		年度	人数/割合		
新規就農者数および新規漁業 就業者数（計画期間内累計）	5人 (H26)	H27	13人	35人	概ね達成
		H28	21人		
		H29	28人		
		H30	30人		
		R1	33人		
		R2	34人		
農地流動化率	54.4% (H26)	H27	56.1%	66.7%	達成
		H28	57.9%		
		H29	60.8%		
		H30	63.0%		
		R1	65.5%		
		R2	67.4%		
認定農業者数	125 (H26)	H27	123	150	未達成
		H28	126		
		H29	128		
		H30	125		
		R1	124		
		R2	121		
認定農業者への農地集積率	68.6% (H26)	H27	—	82.0%	達成
		H28	—		
		H29	—		
		H30	78.0%		
		R1	81.1%		
		R2	82.7%		

【効果検証】

●「新規就農者数および新規漁業就業者数」—概ね達成している。

農業振興においては、新規就農者や町特産品後継者の育成に対する支援、水産業振興においては、漁業新規就業者に対する奨励金や定住に対する支援などを行っており、少しずつではあるが、その効果が現れている。

引き続き、就農・就漁を促すための支援や、グローバルGAPの取得、地理的表示（GI）保護制度への登録など、注目される取組みと、入善ジャンボ西瓜や深層水仕込み牡蠣などの魅力ある特産物と呼び水に担い手の確保に努める。

また、持続可能な農業・漁業経営の確立に向けた環境づくりにも注力していく。

●「農地流動化率」—目標を達成している。

農地の利用集積と集約化を促進するため、担い手の経営規模拡大に対する支援や、入善町農業公社と連携して農地の流動化を進めており、それらの効果が現れている。

今後は、引き続き、関係機関と連携し、国・県等の事業の活用も図りながら、農地の流動化を進め、効率的かつ生産性の高い農業経営を推進する。

●「認定農業者数」—未達成である。

●「認定農業者への農地集積率」—概ね目標を達成している。

「認定農業者数」は、減少の傾向にある。一方で「認定農業者への農地集積率」が年々増加していることから、いわゆる担い手の経営規模の拡大が進み、農業経営の安定化が図られているものと考えられる。

今後は、農地の効果的な集約を促すとともに、持続可能な農業経営の確立を図る必要がある。

基本目標1 産業の活性化を促し、安定した雇用を創出する

施策② 地域産業の活性化

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値		目標値	達成状況
町内事業所数	1,112社 (H24)	H27	—	1,120社	未達成
		H28	1,043社		
		H29	—		
		H30	—		
		R1	1,052社		
		R2	—		
企業立地助成金新規交付件数 (計画期間内累計)	0件 (H26)	H27	1件	5件	概ね達成
		H28	1件		
		H29	1件		
		H30	2件		
		R1	4件		
		R2	4件		
町内企業設備投資による 雇用者数 (計画期間内累計)	0人 (H26)	H27	14人	72人	達成
		H28	16人		
		H29	24人		
		H30	39人		
		R1	117人		
		R2	117人		

【効果検証】

●「町内事業所数」－未達成である。

基準値である平成24年「経済センサス－活動調査」と平成28年実施時を比較すると、指標値が大幅に減少し、基準値を下回った。

特に、中心市街地における「卸売業・小売業」「生活関連サービス・娯楽業」の減少が顕著なことから、新たな起業や創業、事業継承などをスムーズに展開することができるよう「まちなか新店舗等立地応援事業」や「元気な商店街再生事業」などの支援事業の活用を促し、事業所数の増加を目指す。

●「企業立地助成金新規交付件数」－概ね目標を達成している。

町内企業が助成制度を活用し、積極的に設備投資を行っており、目標の5社には達しないものの概ね目標は達成されたものとする。

計画期間中には、大企業の設備投資に対する支援制度の創設や、企業立地助成制度の対象経費の拡充を行うなど、企業ニーズを的確に捉えた支援により、町内企業の経営の安定化を促進している。

また、カナヤママシンリー(株)が新工場建設を進めているなど、今後も企業の活発な事業展開が見込まれる。

●「町内企業設備投資による雇用者数」－目標を達成している。

町の支援制度を活用した町内企業の設備投資と合わせて、目標を大幅に超える雇用者数の増加を達成した。

また、前述のとおり、今後、新工場を建設する企業もあることから、さらなる雇用者数の確保が図られるものと期待される。

基本目標1 産業の活性化を促し、安定した雇用を創出する

施策③ 企業誘致の促進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値		目標値	達成状況
新規立地企業数 (計画期間内累計)	1社 (H26)	H27	1社	2社	達成
		H28	1社		
		H29	1社		
		H30	1社		
		R1	2社		
		R2	3社		
新規立地企業による雇用者数 (計画期間内累計)	7人 (H26)	H27	7人	60人	達成
		H28	7人		
		H29	28人		
		H30	28人		
		R1	85人		
		R2	85人		
地方拠点強化推進事業認定数 (計画期間内累計)	0社 (H26)	H27	0社	1社	未達成
		H28	0社		
		H29	0社		
		H30	0社		
		R1	0社		
		R2	0社		

【効果検証】

- 「新規立地企業数」 - 目標を達成している。
- 「新規立地企業による雇用者数」 - 目標を達成している。

「新規立地企業数」については、(株)ウーケ及び(株)北越が新たに取得した工場用地に新工場を建設し、稼働を開始したことから、指標値が「3社」となり、目標を達成している。

あわせて、「新規立地企業による雇用者数」についても、前述の企業の新工場稼働等に伴い、目標値を大幅に上回る結果となった。

引き続き、地震や台風などの自然災害の少なさや、勤勉な町民性、清らかで豊富な地下水、強固で広大な地盤など、町の強みを最大限に生かした企業誘致活動を積極的に推進し、新たな企業の立地を促す。

なお、計画期間後においても、カナヤママシナリー(株)が新工場建設を進めているなど、さらなる施策の効果が期待される。

●「地方拠点強化推進事業認定数」-未達成である。

地方へ本社機能を移転した企業に対して、税制の優遇措置を行う「地方拠点強化税制」は、国において平成27年度に創設されたものであるが、これまで当町においての実績はない。

制度活用のためには、企業が本社機能を移転するという意向が必要であることから、制度の周知や、企業からの情報収集、情報交換を通じて、ニーズを注視しつつ事業の活用を促していきたい。

基本目標1 産業の活性化を促し、安定した雇用を創出する

施策④ 商業の活性化とまちなのにぎわいづくり

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値		目標値	達成状況
新規創業件数 (計画期間内累計)	0件 (H26)	H27	3件	15件	未達成
		H28	4件		
		H29	5件		
		H30	5件		
		R1	7件		
		R2	7件		
市街地活性化イベント 来場者数	70,250人 (H26)	H27	75,380人	100,000人	未達成
		H28	72,890人		
		H29	65,600人		
		H30	78,000人		
		R1	82,500人		
		R2	33,500人		

【効果検証】

●「新規創業件数」－未達成である。

「起業チャレンジ応援事業」や「まちなか賑わい再生事業」、「元気な商店街再生事業」を実施し、新規創業や事業継承等を支援してきたものの、指標は伸び悩んでいる状況である。

きめ細やかなマッチングを行うとともに、これらの支援制度の活用を促しながら指標の改善に努める。

また、今後は、商工会とも連携し、起業・創業を希望する人のニーズを調査・把握するとともに、サテライトオフィスといった時代の潮流にも呼応した起業や創業を促すため、新たな支援制度や環境づくりなどの検討を進めていきたい。

●「市街地活性化イベント来場者数」－未達成である。

「ラーメンまつり」「入善ふるさと七夕まつり」「まつりんぴっく」の合計来場者数は、年々増加する傾向にあり、目標の達成が見込まれたものの、令和2年度は新型コロナの影響からイベントの中止や縮小を余儀なくされ、目標達成には至らなかった。

施策に対する一定の効果は見えてきていることから、引き続き、商工会等とも連携しながら、より魅力あるイベント開催により指標の向上を目指す。

基本目標1 産業の活性化を促し、安定した雇用を創出する

施策⑤ 働きやすい雇用環境の整備

重要業績評価指標（KPI）	基準値	実績値		目標値	達成状況
女性の町内就業率	55.1% (H22)	H27	53.5%	57.0%	—
		H28	—		
		H29	—		
		H30	—		
		R1	—		
		R2	—		
就職マッチングセミナーの参加者数（計画期間内累計）	77人 (H26)	H27	77人	700人	達成
		H28	211人		
		H29	367人		
		H30	509人		
		R1	630人		
		R2	713人		

【効果検証】

●「女性の町内就業率」—指標は今後公開される。

女性の就業率は増えているものの、近隣市町を就業地とする者の割合が増えているため、指標値が減少している。

この改善を図るため、女性の就業率が高い業種のマッチングフェアへの積極的参加を促すとともに、事業者とも意識を共有しながらワークライフバランスの推進を図り、女性が子育てと仕事を両立できる職場環境の創造を目指す。

●「就職マッチングセミナーの参加者数」—目標を達成している。

これまで通算11回の「入善町人材マッチングフェア」を実施しており、1回当たりの参加者数も少しずつ増加している。

引き続き、企業の採用動向や経済状況などを踏まえ、開催時期や内容等を工夫しながら、指標の向上を図り、すべての町民の「働きたい」の実現を目指す。

なお、これまでにマッチングフェアを通して、80人以上の採用があり、企業の人材確保という点においても、着実に効果が表れている。

基本目標2 入善町に新しい人の流れをつくる

施策① 観光・交流の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値		目標値 (R2)	達成状況
里山温泉観光施設宿泊者数	13,728人 (H26)	H27	14,449人	15,000人	達成
		H28	15,121人		
		H29	16,103人		
		H30	16,486人		
		R1	14,832人		
		R2	5,347人		
町内イベントの来場者数	172,672人 (H26)	H27	186,746人	200,000人	達成
		H28	218,917人		
		H29	197,555人		
		H30	200,518人		
		R1	190,242人		
		R2	37,668人		
海洋深層水パークの来客者数	27,737人 (H26)	H27	40,900人	67,000人	達成
		H28	66,606人		
		H29	67,446人		
		H30	65,283人		
		R1	50,847人		
		R2	34,916人		

【効果検証】

●「里山温泉観光施設宿泊者数」一目標を達成している。

令和2年度は新型コロナの影響により、指標が大幅に悪化したものの、計画期間中には、目標値を上回った年もあることから、目標を達成しているといえる。

また、指定管理者である入善里山観光開発(株)による利用者のニーズを捉えた宿泊プランの設定などの柔軟な経営戦略や、施設周辺の里山環境の整備促進により、指標は増加傾向にあったことから、施策の効果は発現しているといえる。

引き続き、魅力的な里山環境づくりはもとより、施設の長寿命化や機能向上についても計画的に取り組み、指標の回復を目指す。

●「町内イベントの来場者数」－目標を達成している。

令和2年度は新型コロナの影響により、イベントの中止や縮小を余儀なくされたため、指標が大幅に悪化したものの、計画期間中には目標を達成している。

コロナ禍やウィズコロナにおけるイベントのあり方を検討しながら、人の流れの回復と来場者数の増加を目指す。

また、全国的にも高い評価を受けている「にゅうぜんフラワーロード」をはじめとする、町ならではの取組みの積極的な情報発信により、町の魅力の定着を図る必要がある。

●「海洋深層水パークの来客者数」－目標を達成している。

令和2年度は、新型コロナの影響により、海洋深層水パークを会場としたイベントが中止となったことや、移動の自粛や制限により「入善牡蠣ノ星」の来客者数が大幅に減少したことから指標値は悪化しているが、平成29年度には、指標値が「67,446人」となり、目標値を達成したものといえる。

入善海洋深層水の認知度は向上しており、令和3年には「シーサイドロード（仮称）」の開通により、海岸部に点在する魅力的な観光スポットが有機的に結ばれることなどから、新たな人の流れが期待され、さらなる来客者数の増加を図る。

基本目標2 入善町に新しい人の流れをつくる

施策② にゅうぜんブランドの創出とPRの促進

重要業績評価指標（KPI）	基準値	実績値		目標値 (R2)	達成状況
農商工連携・6次産業化による 特産品開発数	7品 (H26)	H27	8品	20品	未達成
		H28	9品		
		H29	9品		
		H30	11品		
		R1	12品		
		R2	13品		
入善ブランド認定数 (計画期間内累計)	0件 (H26)	H27	0件	50件	未達成
		H28	0件		
		H29	0件		
		H30	0件		
		R1	0件		
		R2	0件		

【効果検証】

●「農商工連携・6次産業化による特産品開発数」－未達成である。

事業を活用して開発した商品が定着化しないことなどから、取り組む事業者が少ないため、指標が伸びていない状況である。

今後は、広報やケーブルテレビの活用はもとより、商工会や農協などとの連携を強化し、事業者への周知を図るとともに、事業者のニーズ把握にも努めながら、商品開発とその定着に向けた販路拡大・安定生産への支援や、支援対象とする農林水産物等の掘り起こしなども含め、事業内容を検討していきたい。

●「入善ブランド認定数」－未達成である。

計画期間中に「ブランド認定制度」を実施できなかったことから、目標は未達成となった。

一方で、農商工連携や6次産業化により特産品等を活用した加工品の開発などを推進している。

また、地域団体商標や地理的表示（GI）など、他の制度に登録された商品もあることから、これらの制度の認知度もあわせて、入善町のブランド化を推進していきたい。

今後は、農商工連携や6次産業化をはじめとする特産品開発などの事業との連携を図りながら、特産品のブランド化を推進するとともに、「ブランド認定事業」にこだわらず、入善らしさの創出とPRの促進を図り、特産品の魅力・認知度の向上や町内外への発信に努めたい。

基本目標2 入善町に新しい人の流れをつくる

施策③ 受け入れ体制の充実と定住の促進

重要業績評価指標（KPI）	基準値	実績値		目標値 (R2)	達成状況
定住・しごとポータルサイト アクセス数（1月あたり）	0件 (H26)	H27	0件	3,000件	概ね達成
		H28	1,656件		
		H29	1,173件		
		H30	1,356件		
		R1	2,102件		
		R2	2,990件		
CCRC事業による移住者数 (計画期間内累計)	0人 (H26)	H27	39人	200人	達成
		H28	85人		
		H29	106人		
		H30	149人		
		R1	207人		
		R2	245人		

【効果検証】

●「定住・しごとポータルサイトアクセス数」—概ね目標を達成している。

目標値の達成には至らなかったものの、平成31年2月に移住定住アドバイザーが発信する地域情報ページの充実やアクセスしやすいレイアウトへの変更など、移住希望者が手軽に情報を取得できるよう移住・定住情報サイトを改修したこと、また令和3年2月に町公式サイトをリニューアルしたことにより、アクセス数は増加傾向にある。

今後も移住定住アドバイザーとの協力体制を強固なものとし、地域情報のきめ細やかな発信や、SNS等を活用した情報発信に継続的に取り組むことで、さらなる指標値の増加を図る。

●「CCRC事業による移住者数」ー目標を達成している。

地方創生関連交付金等を活用しながら、UIサポートセンターを核に、移住希望者の視点に立った「入善町安心移住プロジェクト」を展開し、「検討」「交流」「居住」「就業」「移動」の切れ目のない支援を実現したことから、目標値を達成している。

今後も「生涯活躍のまち」が目指す、年齢や障害の有無等を問わず、移住者や関係人口、地元住民等を対象とした「誰もが居場所と役割を持つコミュニティづくり」の考え方にも同調し、都市と地方の人材循環を通じた「人の流れづくり」を推進することで、社会増の実現を目指す。

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる

施策① 結婚促進に対する支援

重要業績評価指標（KPI）	基準値	実績値		目標値 (R2)	達成状況
婚活イベントでのカップル 成立数（計画期間内累計）	0組 (H26)	H27	15組	170組	達成
		H28	56組		
		H29	102組		
		H30	139組		
		R1	171組		
		R2	202組		
婚活サークル参加者数 (計画期間内累計)	0人 (H26)	H27	43人	220人	未達成
		H28	85人		
		H29	131人		
		H30	164人		
		R1	178人		
		R2	178人		
お見合い会員登録者数	0人 (H26)	H27	36人	100人	達成
		H28	47人		
		H29	68人		
		H30	84人		
		R1	99人		
		R2	100人		

【効果検証】

- 「婚活イベントでのカップル成立数」—目標を達成している。

婚活パーティを通算20回開催し、婚活イベント等の参加者の中から通算11組の成婚者が誕生しており、着実に男女の「出会い」が「結婚」に結び付いている。

今後も、引き続き、「それ行け！結婚プロジェクト」を積極的に展開し、婚姻数の増加につなげる。

●「婚活サークル参加者数」-未達成である。

婚活サークルを通算9回開催し、合計21組のカップルが誕生しており、事業の効果が現れている。

今後は、引き続き、「それ行け！結婚プロジェクト」を積極的に展開し、婚姻数の増加につなげる。

●「お見合い会員登録者数」-目標を達成している。

令和元年度から新たに「集団お見合い会」を実施するなど、お見合い事業についても結婚を希望する男女のニーズをとらえながら、多様な事業展開を行っており、目標を達成することができた。

一方で、女性会員が少ないことや、お見合いサポート事業による成婚者が誕生していないことなどが課題となっている。

今後は、その他の「それいけ！結婚プロジェクト」事業とも連携し、事業のPR強化を図るとともに、プロジェクトの協力者である「入善世話やき隊」とも課題解決に向けた意見交換などを活発に行いながら、男女の新たな出会いの場の創出はもとより、お付き合いの継続などにもきめ細やかに対応した事業の展開に努める。

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる

施策② 妊娠・出産に対する支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値		実績値	目標値	達成状況
出産・育児に不安を抱える女性への切れ目のない支援率	個別事業として実施	H27	個別事業として実施	100%	達成
		H28	100%		
		H29	100%		
		H30	100%		
		R1	100%		
		R2	100%		
不妊、不育治療費助成件数	26件 (H26)	H27	24件	75件	未達成
		H28	41件		
		H29	55件		
		H30	63件		
		R1	62件		
		R2	63件		
出産祝い品支給件数	0件 (H26)	H27	137件	180件	未達成
		H28	138件		
		H29	118件		
		H30	119件		
		R1	102件		
		R2	93件		

【効果検証】

- 「出産・育児に不安を抱える女性への切れ目のない支援率」—目標を達成している。

平成28年度に出産・育児のワンストップ窓口として「子育て世代包括支援センター」を設置し、妊娠期から子育て期までの相談や支援を切れ目なく提供する体制を構築した。

また、計画期間内には、妊婦が必要とするサービスを計画的に利用できるような支援する「ママ手帳」の配布や、母乳育児を応援する「出産準備ギフトボックス」の贈呈、スマートフォンなどで育児に必要な情報を得ることができる「母子手帳アプリ」の導入など、妊娠・育児の不安を軽減し、安心して子育てができる体制の強化を図った。

特にケアが必要な産婦に対しては、訪問型やデイサービス型、宿泊型の産後ケアなど、医療機関等とも連携を密にしながら産後の心と体のケアに努めている。

引き続き、相談・ケア体制のさらなる充実を図り、町全体が安心して産み育てることができる「ゆりかご」となることを目指す。

●「不妊、不育治療費助成件数」—未達成である。

各年度の助成件数は確実に増加しているものの、目標の達成には至らなかった。

一方で、この制度を活用し、出生につながった件数は、年間20件程度となっており、出生数が年間100件前後と伸び悩む中において、本施策の充実が着実に「出生数の増加」に結びついている。

計画期間内には、治療に取り組むきっかけとなる「不妊検査」「一般不妊治療」を助成対象に加え、さらには、すべての不妊治療について治療費の9割を助成することで、治療に係る経済的な負担の軽減を図っている。

引き続き、不妊検査・治療が決して特別なことではなく、出産を望む者にとって、より身近なものとなるよう本事業の周知を図ることはもちろん、若年時からのライフプラン教育など、夫婦が希望どおりに子どもを産み育てることができる社会の実現を目指す。

●「出産祝い品支給件数」—未達成である。

出生数の減少に伴い、指標値も減少傾向である。

子育て世代包括支援センターを中心に産前産後における相談・ケア体制の充実を図るなど、出産に対する支援は充実しており、出産後の子育てについても、18歳までの医療費助成をはじめ、県内でもトップクラスの保育料の軽減など、子育て世帯の経済的負担の軽減を図っている。

引き続き、夫婦の「産みたい」の気持ちを様々な面から支援し、長期的な視点に立って出生数の増加を目指していく。

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる

施策③ 子育て支援の充実

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値		目標値	達成状況
第3子以降の出生数	24人 (H26)	H27	21人	30人	未達成
		H28	29人		
		H29	26人		
		H30	26人		
		R1	20人		
		R2	19人		
保育所の入所待機児童数	0人 (H26)	H27	0人	0人	達成
		H28	0人		
		H29	0人		
		H30	0人		
		R1	0人		
		R2	0人		
0歳児保育の実施割合	73.5% (H26)	H27	70.0%	100%	達成
		H28	100%		
		H29	100%		
		H30	100%		
		R1	100%		
		R2	100%		
早朝・延長保育の実施割合	60% (H26)	H27	65.0%	100%	達成
		H28	100%		
		H29	100%		
		H30	100%		
		R1	100%		
		R2	100%		
休日保育の実施	未実施	H27	未実施	実施	達成
		H28	実施		
		H29	実施		
		H30	実施		
		R1	実施		
		R2	実施		

【効果検証】

●「第3子以降の出生数」－未達成である。

第3子以降については、平成28年度には「29人」と目標値並みの出生数となったものの、計画期間をとおして総出生数が減少していることから、目標の達成には至らなかった。

引き続き、子宝支援金や医療費助成、保育料の軽減などによる子育て世帯の経済的負担の軽減はもとより、子育て世代包括支援センターを中心とした出産・育児に係るきめ細やかな相談・ケア体制を強化するなど、出産や育児、子どもの成長に係る不安の解消にも寄り添いながら、出生数の増加を図る。

●「保育所の入所待機児童数」－目標値を達成している。

●「0歳児保育の実施割合」－目標値を達成している。

●「早朝・延長保育の実施割合」－目標値を達成している。

●「休日保育の実施」－目標値を達成している。

保育所の統合などにより、保育所の機能強化を図るとともに、「0歳児保育」「早朝・延長保育」「休日保育」など、保育に係る今日的なニーズにも確実に対応した保育サービスを堅持し、安心して子どもを預けることができる環境の整備を進める。

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる

施策④ 郷土愛あふれる教育の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値		目標値	達成状況
将来も入善町に住み続けたい と思う若者の割合 (19歳以下)	40.7% (H26)	H27	—	60.0%	未達成
		H28	—		
		H29	—		
		H30	—		
		R1	39.7%		
		R2	—		
成人式参加率 (基準値は過去10年の平均)	88.7% (H26)	H27	81.5%	95.0%	未達成
		H28	90.9%		
		H29	84.2%		
		H30	85.7%		
		R1	79.7%		
		R2	80.8%		

【効果検証】

●「将来も入善町に住み続けたいと思う若者の割合」—未達成である。

第7次総合計画の策定にあたり、令和元年度に行った若者アンケートの結果では、入善町に住み続けたいと思う若者の割合は4割を下回っている。

「入善町以外に住みたい理由」は、「自分のやりたいことが学べたり実現できたりする環境ではないから」「自分に合う仕事(職場)がないから」が上位であった。

一方で、入善町への愛着に対する設問については、「感じている」と回答した若者が約7割であった。

引き続き、積極的な企業誘致やサテライトオフィスの誘致など、若者等が働きたいと感じる雇用の場をしっかりと確保するとともに、多くの若者がアンケートにおいて、「町の良い点・魅力」として回答した「水が豊富でおいしい」など、町の魅力を活かしながら、選ばれるまちづくりの推進に努める。

●「成人式参加率」—未達成である。

成人式の参加率は、年度ごとに若干の増減はあるものの横ばい傾向にある。

成人式においては、移住定住パンフレットの配布や、移住セミナーの案内などを届けるダイレクトメールサービスの周知などを行い、大学卒業後などの町へのＵターンを呼び掛けるなど、移住や定住につながる取組みにも努めている。

成人式そのものの魅力向上はもちろん、子どもの頃から、学校だけでなく、家庭や地域における「ふるさと教育」を推進し、町への愛着を育み、将来の定着を促す取組みを進めていく。

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる

施策⑤ 仕事と生活の調和の実現

重要業績評価指標（KPI）	基準値	実績値		目標値	達成状況
子育て応援企業認定数（基準値は 元気とやま子育て応援企業数） （計画期間内累計）	14社 (H26)	H27	14社	30社	未達成
		H28	14社		
		H29	15社		
		H30	15社		
		R1	15社		
		R2	15社		

【効果検証】

●「子育て応援企業認定数」－未達成である。

引き続き、県が実施している「元気とやま！子育て応援企業」を県とも連携しながら、町内事業所に対して周知するなど、指標の向上に努めたい。

町においても、入善町役場における「イクボス宣言」や男女共同参画フォーラムでの「イクメン・イクジイ・カジダン写真展」を開催するなど、職場や家庭などにおいても子育てがしやすい環境づくりを促す取組みを推進しており、今後は「働き方改革」の推進による多様な働き方を選択できる社会の実現や、ワークライフバランスの実現に向け、事業所とも連携を密に施策展開の充実を図る。

基本目標4 扇状地の恵まれた環境の中で、豊かで安心して暮らせるまちをつくる

施策① 健康づくりの推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値		目標値	達成状況
生活習慣を改善している人の割合	42.5% (H26)	H27	42.4%	50.0%	未達成
		H28	38.3%		
		H29	45.6%		
		H30	44.7%		
		R1	40.7%		
		R2	45.0%		
介護保険認定者の割合 (65歳以上)	18.5% (H26)	H27	17.4%	18.0%	達成
		H28	17.9%		
		H29	18.6%		
		H30	19.1%		
		R1	18.8%		
		R2	19.0%		

【効果検証】

●「生活習慣を改善している人の割合」－未達成である。

指標値は、基準値よりも増加しているものの、直近では横ばい傾向であり、目標の達成には至らなかった。

「突撃！隣のみそ汁調査隊」による家庭訪問や料理教室に加え、「減塩いいね！週間」の制定などをきっかけに、産学官民が連携した町民ぐるみの「減塩いいね！プロジェクト」の取組みを積極的に推進することで、町民の健康づくりへの関心と意識の向上を図る。

引き続き、イベントや出前講座を通してプロジェクト事業の普及啓発を図るとともに、さらなる施策の充実により、指標値の向上に努める。

●「介護保険認定者の割合」-目標を達成している。

計画期間内には一旦、目標を達成したものの、現在は高齢化率の上昇とともに、介護保険認定者の数も増加傾向となっている。

引き続き、生涯現役めざし隊や地域運動指導リーダーなど、地域における健康づくり人材の養成・育成を進め、地域の集いの場でもあるサロン活動の活性化を図るとともに、支援が必要な高齢者を早期に把握するための基本チェックリストの活用や、おもりを利用した筋力トレーニング「いきいき100歳体操」の普及などを実施することで、さらなる介護予防・フレイル予防の推進を図る。

基本目標4 扇状地の恵まれた環境の中で、豊かで安心して暮らせるまちをつくる

施策② 医療・福祉の充実

重要業績評価指標（KPI）	基準値	実績値		目標値	達成状況
医療機関新規立地数 (計画期間内累計)	0 施設 (H26)	H27	1 施設	2 施設	達成
		H28	1 施設		
		H29	1 施設		
		H30	1 施設		
		R 1	2 施設		
		R 2	2 施設		
サービス付き高齢者向け 住宅数	1 施設 (H26)	H27	1 施設	2 施設	達成
		H28	1 施設		
		H29	2 施設		
		H30	2 施設		
		R 1	2 施設		
		R 2	2 施設		
ケアネットチーム数	91チーム (H26)	H27	83チーム	115チーム	達成
		H28	78チーム		
		H29	84チーム		
		H30	90チーム		
		R 1	128チーム		
		R 2	129チーム		

【効果検証】

●「医療機関新規立地数」一目標を達成している。

平成28年2月の医療法人社団秋桜丸川病院、令和元年8月のすみれ内科クリニックの新規開業により、目標は達成している。

引き続き、「入善町地域医療体制整備事業」を実施し、病院等の新設、増設を支援するとともに、町内医療機関のニーズを把握し、きめ細やかな支援を行い、公的医療機関のない町内においても充実した医療サービスを提供することができる地域医療体制の強化を図る。

●「サービス付き高齢者向け住宅数」ー目標を達成している。

平成29年5月に(株)ささや木がサービス付き高齢者向け住宅を開設したことにより、目標は達成している。

今後も新川地域介護保険・ケーブルテレビ事業組合の構成市町と連携し、国・県等の事業を活用しながら介護事業所への支援を行うなど、提供サービスの充実を図るとともに、在宅による介護への支援など、高齢者が安心して快適な暮らしができるよう取り組む。

●「ケアネットチーム数」ー目標を達成している。

ケアネットチーム数については、目標値を達成している。

今後、さらなる高齢化の進展により、支援が必要な高齢者等の増加が想定されることから、ケアネットチームによる見守り体制の強化はますます重要となる。

町社会福祉協議会が地域住民と連携し、支援が必要な高齢者などの状況把握や支援を行うケアネット事業はもちろん、地域包括ケアシステムの構築を進め、地域における支え合いの仕組みづくりに努める。

基本目標4 扇状地の恵まれた環境の中で、豊かで安心して暮らせるまちをつくる

施策③ 犯罪や災害のないまちづくりの推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値		目標値 (R2)	達成状況
自主防災組織数	22組織 (H26)	H27	22組織	50組織	達成
		H28	22組織		
		H29	22組織		
		H30	30組織		
		R1	53組織		
		R2	54組織		
犯罪発生件数 (入善警察署管内)	94件 (H26)	H27	68件	大幅減少	概ね達成
		H28	67件		
		H29	84件		
		H30	58件		
		R1	73件		
		R2	58件		
特殊詐欺被害届出件数 (入善警察署管内)	5件 (H26)	H27	2件	0件	概ね達成
		H28	2件		
		H29	2件		
		H30	3件		
		R1	1件		
		R2	1件		

【効果検証】

- 「自主防災組織数」一目標を達成している。

地震や台風、豪雨など、近年、全国各地で大規模な自然災害が多発していることなどから、町民の災害に対する危機意識が高まり、あわせて自主防災組織数も増加しており、目標を上回る54組織が活動している。

県との合同総合防災訓練の実施や、洪水・土砂災害などの各種ハザードマップの更新、出前講座や地区ワークショップなどによる啓発活動など、町民が日頃から災害の発生を意識するよう促すとともに、引き続き、地域ぐるみの防災活動への取組み支援等をとおして組織化や町民の防災意識の向上に努める。

●「犯罪発生件数」-目標を達成している。

計画期間内における犯罪発生件数は減少傾向にあり、令和2年には基準値から約4割の減少と、目標である大幅な減少を達成しているものとする。

防犯パトロール活動に対する支援や防犯カメラの設置など、地域ぐるみによる犯罪抑止力のさらなる向上を目指す。

●「特殊詐欺被害届出件数」-概ね目標を達成している。

特殊詐欺被害届出件数については、基準値よりも減少しており、事業の効果が現れている。

今後も、引き続き、高齢者宅への通話録音装置の貸し出し、広報や回覧板での情報提供や注意喚起を促すことで、消費者行政のさらなる強化を図る。

基本目標4 扇状地の恵まれた環境の中で、豊かで安心して暮らせるまちをつくる

施策④ より快適な生活基盤の整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値		目標値	達成状況
新幹線アクセス路線バス利用者数	565人 (H26)	H27	7,895人	12,000人	未達成
		H28	6,752人		
		H29	6,217人		
		H30	5,503人		
		R1	4,233人		
		R2	休止		
デマンド交通利用者数	0人 (H26)	H27	5,625人	17,000人	未達成
		H28	10,852人		
		H29	12,113人		
		H30	14,092人		
		R1	15,262人		
		R2	12,684人		
都市計画公園整備率	85.7% (H26)	H27	85.7%	100%	達成
		H28	100%		
		H29	100%		
		H30	100%		
		R1	100%		
		R2	100%		

【効果検証】

- 「新幹線アクセス路線バス利用者数」 - 未達成である。

「入善新幹線ライナー」については、平成30年度に実証実験や利用者アンケート等を行うなど、運行のあり方について、利用状況や経費などを踏まえながら、段階的な予約制の導入など、様々な検証を行ってきたが、利用者数は年々減少している。

このことから令和2年9月末をもって運行を取りやめることとしており、今後は、観光やビジネスなどの観点からも重要である新幹線駅と入善町をつなぐ二次交通対策について、様々な検討を進めていきたい。

●「デマンド交通利用者数」-未達成である。

デマンド交通導入以降、平成30年度に実証実験や利用者アンケート等を行うなど、常に利用者ニーズを捉え、利便性の向上に努めることで、年々、利用者が増加している。

令和元年度には、予約センターの機能強化を行ったところであり、今後も分析・検証等を行いながら、さらなる利便性の向上を図り、利用者数の増加を目指す。

●「都市計画公園整備率」-目標を達成している。

平成28年度の下上野公園整備により、すべての都市計画公園の整備が完了した。

総合戦略策定時には公園整備計画はなかったものの、住民ニーズの高まりに応じて、現在は中央公園の整備を進めており、引き続き、子どもたちや高齢者をはじめ、利用者が安心して利用することができる居心地の良い公園づくりを目指す。

基本目標4 扇状地の恵まれた環境の中で、豊かで安心して暮らせるまちをつくる

施策⑤ 支え合う地域づくり

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値		目標値	達成状況
地域コミュニティ活動団体数	131団体 (H26)	H27	131団体	130団体	達成
		H28	131団体		
		H29	131団体		
		H30	130団体		
		R1	130団体		
		R2	130団体		
ボランティア会員数 (団体・個人)	1,643人 (H26)	H27	1,690人	1,740人	達成
		H28	1,699人		
		H29	1,708人		
		H30	1,873人		
		R1	2,011人		
		R2	1,979人		

【効果検証】

●「地域コミュニティ活動団体数」—目標を達成している。

町では、地域コミュニティ活動団体に対する支援として「地区振興補助金」や「コミュニティ・パートナーシップ構築事業」、「元気な地区づくり応援事業」などを実施し、コミュニティの維持・活性化に努めている。

今後は、少子高齢化が進むことで、コミュニティの重要性はさらに増すことから、地域のニーズを把握しながら、時代にあった柔軟な支援を検討する。

●「ボランティア活動数」—目標を達成している。

入善町社会福祉協議会を実施主体とし、各地区のボランティアサポーターと連携しながら、ボランティア活動等の支援を行っており、指標値については、年々増加し、目標値を達成している。

今後も、引き続き、町民のボランティア意識の醸成を図るため、普及啓発や活動に対する支援を行う。

Ⅲ 国の支援制度を活用した事業の効果検証について

1. 地方創生推進交付金（令和2年度当初予算）

(i) 入善町黒部川扇状地フィールドミュージアム構想推進事業 ～まちの魅力づくりによる定住促進～（単独）

計画期間：平成30年度～令和2年度

令和2年度交付金額：6,550,000円（うち4,950,000円は令和3年度に繰越し）

対象事業：○黒部川扇状地フィールドミュージアム映像コンテンツ制作事業

○黒部川扇状地フィールドワーク推進事業

(1) 重要業績評価指標（KPI）の効果検証

重要業績評価指標（KPI）	当初値 (H28)	最終目標値 (R2)	最終実績値 (R2)	達成状況
20歳代のUターン者数 ※町独自推計	43人	58人	40人	C
沢スギ自然館の来館者数	29,241人	36,241人	23,932人	
海洋深層水活用施設の 来客者数	35,681人	42,681人	14,474人	

※【事業効果】 地方創生に非常に効果があった・・・A 地方創生に相当程度効果があった・・・B
地方創生に効果があった・・・C 地方創生に効果がなかった・・・D

(2) 今後の方針

「20歳代のUターン者数」は当初値を下回る事となった。

本事業では、町の豊かな「水」を中心テーマに、扇状地に点在している水に係る資源を博物館と捉える「黒部川扇状地フィールドミュージアム事業」の推進を図るため、黒部川扇状地の魅力をリアルに体験するフィールドツアーの実施や、バーチャルリアリティ（VR）やコンピュータグラフィックス（CG）などの映像技術を有効に活用して町の魅力を紹介する映像コンテンツの制作、映像を体験するためのシアター整備を行った。

映像コンテンツについては3作品を制作し、1作目では「入善をみつめる」として、四季折々の美しい自然をテーマに町を紹介し、2作目では「入善をひもとく」として、扇状地の成立ちや黒部川の氾濫と治水の歴史を紹介、3作目では「入善の海底浪漫」として、海底林の形成と謎を紹介している。

令和元年12月19日には、うるおい館内にナビゲートシアターをオープンし、これらのコンテンツを一般に公開している。

今後は、映像コンテンツと合わせて、フィールドミュージアムを形成する町内の水にまつわるスポットにおいて、町民の町への愛着の醸成はもとより、町内外に向けた町の魅力を発信していく。

「沢スギ自然館の来館者数」については、平成30年度の台風被害の影響で一時立入禁止となっていたことなどから指標値が減少しており、その後も新型コロナの影響も相まって指標値が改善されていない状況である。

これまでに制作した映像コンテンツには、杉沢の沢スギの繊細で美しい4K映像や、昭和30年代の入善町のいたるところに沢スギが群生している様子を再現したCG映像などもあることから、これらの映像コンテンツを活用し、杉沢の沢スギの魅力を現地も含めて広く発信することで、指標値の改善を目指す。

「海洋深層水活用施設の来客者数」については、新型コロナの感染拡大により、人の移動の自粛や制限、イベントの中止などが影響したことから、指標値が大きく減少している。

一方で、「入善 牡蠣ノ星」では、毎年3万人近い集客があり、確実にひとの流れが創出され、一定の効果が見えていることから、引き続きフィールドミュージアム事業を有効に活用しながら指標の向上に努めたい。

(参考)「海のあるスイス」をめざすALL富山観光プロジェクト

～マーケティングとブランディングによる選ばれ続ける観光地づくり～ (広域)

計画期間：平成28年度～令和2年度

令和2年度交付金額：1,030,278円

事業内容：○戦略的な観光地域づくり ○富山らしい魅力創出

○戦略的なプロモーション

重要業績評価指標 (KPI) の効果検証

重要業績評価指標 (KPI)	当初値 (H27)	実績値	目標値	達成状況	最終目標値 (R2)
観光消費額	1,635億円	1,483億円 (R1)	2,067億円	—	2,110億円
アンテナショップへの 来館者数	50.8万人	67.3万人 (R1)	110万人		115万人
県立美術館等の年間来館者数	39.7万人	91.9万人 (R1)	55万人		62万人
延べ宿泊者数	3,895,490人	3,807,890人 (R1)	4,569,490人		4,921,490人

※【事業効果】 地方創生に非常に効果があった・・・A 地方創生に相当程度効果があった・・・B
 地方創生に効果があった・・・C 地方創生に効果がなかった・・・D

※(公社)とやま観光推進機構の「マーケティング戦略委員会」で効果検証を行う。

(参考)「みらい」へつなぐ持続可能な富山型グローバル交通
ネットワーク形成事業(広域)

計画期間：令和元年度～令和3年度

令和2年度交付金額：28,495円

事業内容：○地域公共交通ネットワークの確保・充実

重要業績評価指標(KPI)の効果検証

重要業績評価指標(KPI)	当初値 (H30)	実績値	目標値	達成状況	最終目標値 (R3)
鉄軌道・バスの利用率 (県民1人当たりの年間利用回数)	44回	45.5回 (R1)	44.5回 (R1)	—	45.5回
観光客の県内交通機関の 満足度	52%	50.8% (R1)	55% (R1)		59%
農林漁業等体験者数 (県内における棚田オーナー、観光農 園、地引網等の体験活動に参加した延べ 人数)	58,877人	— (R1)	60,751人 (R1)		64,500人
富山空港国内・国際路線(チャー ター便含む)の利用者数	563,672人	554,681人 (R1)	567,282人 (R1)		574,502人

※【事業効果】 地方創生に非常に効果があった・・・A 地方創生に相当程度効果があった・・・B
地方創生に効果があった・・・C 地方創生に効果がなかった・・・D

※「富山県地域交通活性化推進会議」等で効果検証を行う。

(参考)「立山黒部」世界ブランド化推進事業(広域)

計画期間：令和2年度～令和6年度

令和2年度交付金額：500,000円

事業内容：○「立山黒部」の世界ブランド化

重要業績評価指標(KPI)の効果検証

重要業績評価指標(KPI)	当初値 (R1)	実績値	目標値	達成状況	最終目標値 (R6)
立山黒部アルペンルート の観光入込数	885,000人	— (R2)	908,000人 (R2)	—	1,000,000人
黒部ルート の旅行者数	—	— (R2)	— (R2)		7,000人
オンライン登山届 コンパスの 利用者数	10,632人	— (R2)	23,132人 (R2)		83,132人
旅行者の満足度	74.4%	— (R2)	75.5% (R2)		80.0%

※【事業効果】 地方創生に非常に効果があった・・・A 地方創生に相当程度効果があった・・・B
地方創生に効果があった・・・C 地方創生に効果がなかった・・・D

※「富山県地域交通活性化推進会議」等で効果検証を行う。

2. 地方創生拠点整備交付金（令和2年度当初予算）

（i）海洋深層水と地下水を活かした 入善版ローカルイノベーションプロジェクト（単独）

計画期間：令和2年度～令和5年度

令和2年度交付金額：2,695,000円

対象事業：○海洋深層水取水施設整備基本計画作成事業

（1）重要業績評価指標（KPI）の効果検証

重要業績評価指標（KPI）	当初値	最終目標値	最終実績値	達成状況
海洋深層水を活用する企業の 新規雇用者数 ※事業完了後増加数	—	25人	—	—
海洋深層水を活用する企業の 設備投資額 ※事業完了後増加額	—	3,000百万円	—	
海洋深層水を活用する企業の 年間売上高 ※事業完了後増加額	—	2,000百万円	—	

※【事業効果】 地方創生に非常に効果があった・・・A 地方創生に相当程度効果があった・・・B
地方創生に効果があった・・・C 地方創生に効果がなかった・・・D

（2）今後の方針

令和2年度から地方創生拠点整備交付金を活用して、海洋深層水の利用促進による産業の活性化や雇用の創出を目指している。

事業では、海洋深層水の新たな取水施設を整備することとしており、令和2年度には施設整備にかかる基本計画を作成したところであり、今後、計画に基づき設計・整備を進めていくこととしている。

施設整備による「海洋深層水を活用する企業の新規雇用者数」「海洋深層水を活用する企業の設備投資額」「海洋深層水を活用する企業の年間売上高」の向上を指標としており、施設整備完了後のそれぞれの効果を検証することとしている。